

## 令和5年度 江差高等看護学院学校関係者評価会議議事録（概要）

日時 令和5年5月26日（金）15:00～16:00

場所 江差高等看護学院2階調理実習室

### 1 学院長挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本会議は、本年1月に2年ぶりに開催をしまして、1月の会議では、ハラスメント再発防止対策の進捗状況をはじめ、学院の現状と課題を報告させていただきました。再発防止対策につきましても、一定の成果が確認されましたが、今年度の入学生は6名と昨年度をも下回り、学生確保の問題については一層深刻になっているところです。

本日の会議は、本来の学校評価会議の目的に立ち返り、学院運営や授業評価について学院が行った自己評価を報告して、それについてご意見をいただくこととしております。また、学生確保が大きな課題でもあり、今年度のオープンキャンパスの企画をお諮りいたしますが、皆様方にもぜひご協力をお願いしたいと考えているところです。

会議の最後には、高校教員向けの説明会のために作成をしました学院PR動画もご覧いただこうと思います。限られた時間ですけれども、本日はどうぞよろしくお願いたします。

### 2 構成員紹介

学識経験者（座長）、医療関係者（道立江差病院）、保健関係者（江差町役場）、福祉関係者（乙部町役場）、非常勤講師、保護者、学生自治会、学生寮自治会、学院同窓会、高校関係者（江差高校）、地域住民代表（NPO法人）、その他（行政関係者 檜山町村会）

計12名

### 3 議事

(1) 令和4年度(2022年度)自己評価の結果・令和5年度(2023年度)重点目標について(資料1)

事務局より資料1を用いて説明

学院の概要、使命については資料参照願う。

卒業生の状況

平成4年度国家試験は不合格者がおり、合格率83.3%と全国平均を下回った。今年度は、4月以降、朝学習や小テスト等を繰り返し行い、国家試験対策の一層の強化に努めている。

## II 自己評価結果

### 1 学院運営評価

#### ○目的

学院の理念及び目標等に照らし、学院が自らの教育活動の評価を行い、その結果に対し、外部評価を受けることを通じ、より質の高い教育活動の実践と学院運営の改善を図るとし、全教職員を対象に、令和5年3月にアンケートを実施。

#### ○評価項目

I教育理念・教育目的、II教育目標、III教育課程経営、IV教授・学習・評価過程、V経営・管理課程、VI入学、VII卒業・就業・進学、VIII地域社会・国際交流、IX研究の9項目で、評価尺度を点数化し、「A：よく当てはまる」を3点、「B：やや当てはまる」を2点、「C：やや当てはまらない」を1点、「D：当てはまらない」を0点として各カテゴリーの平均を算出。結果は、9項目中8項目で、平均点が2点以上と肯定的評価だった。(図1)

#### ○最も平均点が高い項目

入学で2.6。最も平均点が低い項目は、VII卒業・就職・進学の1.5点。

### ○カテゴリー別評価尺度割合

「A：よく当てはまる」が最も多かったのが、入学で61.1%。A評価が最も低いのは、研究の8.3%。AとBを合わせた割合は9項目中8項目で6割を超えていた。Ⅶ卒業・就業・進学は「C：やや当てはまらない」で、40.6%。「D：当てはまらない」が10.4%。合計で約51%が当てはまらないと回答。（詳細は資料1 集計結果）

### ○特に自己評価が高い項目

IからⅣの教育目的、目標に関する事で、その妥当性などを常に意識しながら学院運営を行っている。Ⅴ経営・管理過程では、入学後の学習環境の整備、保護者をはじめとする関係者との情報共有、学院をアピールする広報活動などで自己評価が高い。Ⅵ入学生の確保や、Ⅷ地域社会との交流も、実態に合わせて取り組みを工夫して対応している。

### ○自己評価が低い項目

Ⅲの教員が授業準備のための時間がとれているかや、Ⅶの卒業生の就職先での評価、活動状況などの把握、教育課程への反映だった。Ⅲは、教員の欠員があり、一人一人の講義や教務事務役割の負担感などがあることから、教員の欠員補充に向けて、道本庁へ働きかけるほか、非常勤講師や実習インストラクターなどの活用を図っていきたい。Ⅶ卒業等については、オンラインも活用し、卒業生の支援や相談体制の充実、就職先との意見交換などを通じ、卒業生の活動状況を把握して教育課程に反映させていく。

### ○まとめ

教育運営は概ね適切に実施できているという自己評価。ハラスメント問題の第三者調査委員会調査書ではふるい落とすような教育方針や、保護者等との情報共有が不十分であったことなどが課題とされていたが、「全員卒業し、国家試験に合格できるよう取り組む」、「学生が学修を継続できる支援体制を多角的に整える」、「教育活動等の情報を、保護者等関係

者に行っている」などの自己評価が高く、指摘されていた課題について意識的に取り組み、改善していると考える。今後は入学生確保、卒業生への支援を強化する必要があると考えている。

## 2 授業評価

### ○目的

学生の視点に立った授業改善を進め、学生が主体的に授業に取り組める姿勢を育むことを目的として、すべての授業、実習について授業評価アンケートを実施。

アンケートは従来、自記式・記名式だったが、Web回答・無記名に変更。

### ○授業科目アンケート評価項目

「（１）自身の授業への取り組み姿勢について」、「（２）教員の授業の進め方について」、「（３）授業内容の理解について」、「（４）授業全体について」の４つ項目を設定。

### ○実習アンケート評価項目

「（１）自身の授業への取り組み姿勢について」、「（２）実習の方法・内容について」、「（３）指導者の指導について」、「（４）教員の指導について」、「（５）実習環境」、「（６）総合評価」の６つ項目を設定。

各質問票は資料として添付。

### ○評価基準

「そう思う４点」、「まあそう思う３点」、「あまりそう思わない２点」、「そう思わない１点」の４段階評価。

### ○結果

回収率は基礎分野 60.7%。専門基礎分野 55.5%。専門分野 60.8%。臨地実習 80.8%。科目ごとの回収率は 12.5%から 100%とばらつきがある。項目別の平均点などは資料参照。

## ○まとめ

令和4年度の授業評価はアンケートの回収方法を変更して実施。記名式から無記名とする  
ことで回答者が特定されることがないため、学生の率直な意見を聞くことができた  
と考える。  
自記式からWebでの回答としたことで、回答用紙を配布・回収する作業がなく、集計  
作業も効率化され、学生の回答しやすさにもつながったと考える。

回収率が低い科目があったことは、アンケート方式の変更準備に時間を要し、9月  
からの開始となったこと、複数の講師によって授業が構成されている科目は、  
すべての講師の授業終了後にアンケートを実施したこと、配布直後に入力せず、  
その後回答を忘れたことなどが原因と考えられる。

今後は、事前説明は同様に行い、アンケート配付を授業最終日、学内教員の  
授業は授業時間の終わり、非常勤講師の授業は最終日に学年担当教員が配布し、  
その場で入力してもらうことで、できるだけ多くの学生の意見を把握できるように  
していく。

## ○平均得点

授業科目ごとに大きな差はないが、基礎科目、専門基礎科目、専門科目と看護  
の学習が深まるにつれ、学生の理解度や興味・関心が高まっているのがわかる。

## ○授業全体の項目別平均得点

「自身の取り組み」が最も低い値となっている。自己理解を振り返り、理解  
できていないところを再度自己学習することは知識の定着につながり、社会人  
となった後の自己研鑽にもつながっていくと考えられ、授業前の課題学習や  
ポストテストによる課題の明確化などにより、自己学習の機会を設けていく  
必要があると考えている。また、学生の多くは学生寮で生活しているため、  
寮内でも学習しやすい環境を整備していきたい。

## ○実習全体

項目別平均得点で著しい差は見られないが、老年看護学実習Ⅰは他の実習よりも低い値となった。この実習は新型コロナウイルス感染症の影響により、実習開始から数日で学内実習へ変更となり、実際の対象と接することができなかったことが影響したと考えられ、学内実習においても模擬患者とコミュニケーションが図られ、情報を追加することができたり、日々の看護の変更を考えたりできるような工夫が必要と考えている。

### 3 学生生活ハラスメントアンケート

#### ○目的

学生満足度の向上、ハラスメントの未然防止、早期発見・対応等に向けて、今後の学院運営の参考とすることを目的に、全学生を対象に実施。

#### ○結果

「学院生活が満足している。楽しい、まあまあ楽しい」

1回目 65% → 4回目 76%

「自分自身に満足しているか、そう思う、どちらかと言えばそう思う」

1回目 48% → 4回目 62%

「自分が役に立たないと感じるか、どちらかと言えばそう思わない、そう思わない」

1回目 45% → 4回目 62%

「今の自分が好きか、そう思う、どちらかといえばそう思う」

1回目 41% → 4回目 65%

自己肯定感に関する質問についても、いずれも増加した。

ハラスメントの有無は、4回のアンケートで4件確認されたが、教員間で具体的な状況を想起したり、学院運営アドバイザーから助言を得るなどして、適宜対応。

明確にハラスメントや、不適切な指導に該当するものはないが、職員間でハラスメントや

学生への指導方法について、改めて学習したほか、学院として必要な指導は学生が嫌な思いをすることがあっても伝える必要があることを確認するとともに、学生にはハラスメントと感じた場合は、目安箱や相談員に相談するよう周知した。

#### ○まとめ

ハラスメントの被害にあったり見聞きしたことで萎縮したり不安を持つ学生が、安心して学生生活を送ることができているか、定期的に学院満足度、自己肯定感を測定した。アンケートを重ねるごとに満足度、自己肯定感が向上したことが確認でき、ハラスメント再発防止対策が着実に成果を上げていると考えている。

### 4 今年度の重点目標

#### ○目的

教育効果の維持に必要な学生数の確保、修業年限3年での卒業、看護師国家試験合格、看護師が不足する地域への就職。

#### ○目標

入学者数の確保 12人以上、受験者数の確保 36人以上、卒業割合の向上は全道平均以上、国家試験合格率の向上は全国平均以上、南檜山圏域への就職年間3人以上。

#### ○取り組み方法

##### 「受験生・入学生の確保」

地域の関係機関と連携したオープンキャンパス、高校訪問、ホームページなどを活用した学院のPR、魅力あるカリキュラムづくりなど。

##### 「魅力あるカリキュラムづくり」

今年度の実習で道立施設や江差地域の関係機関の協力をいただき、札幌医科大学附属病院、子ども総合医療療育センター、奥尻町、奥尻町国保病院、南檜山メディカルネットワーク、

江差ケアカフェなどでの見学実習を予定。

現在、少人数だから丁寧な指導を受けられるという学生の声が多くあるが、40名定員なので少人数教育を積極的にPRすることがなかなかできない。確保できる見込みのある現実的な学生数に合わせて、定員を見直し、少人数教育をPRすることについても、道本庁と協議をしていきたい。

#### 「修業年限での卒業・国家試験合格」

一人一人の学生にあわせた丁寧な指導、国家試験対策の強化を行っていく。

#### 「南檜山圏域への就職・卒業生へのフォローアップ」

実習やインターンシップの活用、修学資金のPRなどのほか、卒業生の相談体制についても検討していく。

#### 「指導体制」

教員の人材確保、指導力向上に向けた人材育成、教員が指導に専念できるような環境づくりを進めていく。

#### (質問・意見)

#### (高校関係者)

自己評価の中で入学の項目が高くなっており、個々の評価を見ても高い評価をされている。VI入学については受験者の確保、選抜の妥当性、選抜の考え方と教育目的との一貫性を掲げられてて、入学に関して内部的には高い評価をしているが、なかなか人が入らないことを考えると、今後、どのように実施していこうというところが、今回の目標にも関わっていくということでもよろしいか。例えば職員が、どのような考え方で入学の評価をつけたのかが知りたい。

#### (事務局)



おっしゃる通り、自己評価の高さと入学生数について、結果が伴っていない。自己評価が高いのは、学生が減っている現状とこれからどのように確保していくかをかなり丁寧に職員間で共有したり、どのような方法でできるのかを協議したりアイデアを出しながら、このような方法でPRをしようとか、高校周りも丁寧に行うなど、そのような取り組みを自分たちでやってきたことが、自己評価の高さに繋がっていると感じている。しかし、そうは言っても結果がなかなかついてこないところもある。先日も高校教員向けの学校説明会をWebで開催したが、申し込み自体非常に少なく、道南から5校のみの参加であった。また、まだまだ江差高看の評判が良くないという声も聞き、実際には、ハラスメント問題のことも含めて、もっと学院が変わりつつあることをPRしたり、地域の方々に学院の現状を知っていただく努力をしていかないといけないと考えているところ。

オープンキャンパスの企画についても、その打開策として、地域の方に学院の現状を知っていただく機会にしたいと思って考えていたところ。

(座長)

学生確保に様々な取り組みをしているのは、前回会議でも報告があったところで、取り組みを継続していけば、入学者の増加も期待できるので、先生方におかれましては引き続き入学生確保に向けて努力していただきたい。

(非常勤講師)

実習評価ですが、老年実習が寂しい結果になっているが具体的にどんなことがあったのか教えていただきたい。

(事務局)

老健施設、老人福祉施設での実習が老年看護学実習Ⅰであるが、新型コロナウイルス感染症が管内で非常に流行した時期と重なり、実習に行けるか日々調整、変更しながら、何とか

数日間実習できたという状況だった。

限られた実習機会では何とか全員が経験できるように午前中と午後のグループを入れ替えたりしながら受け入れていただいた施設もあったが、それも感染者が増えて途中で中止になった。その後は、学内で紙上事例（紙に書いてある患者の情報）から看護を考え演習を実施したが、「もっと患者さんと接してみたかった、コミュニケーションをとりたかった」といった学生の気持ちと学習内容が合致しなかったところが大きな原因ではないかと思っている。

(非常勤講師)

現在はハラスメント問題のダメージから回復のフェーズに入っていると思う。学生確保の問題は前回会議でもあったと思うが、今、看護学校ではなく、大学への学生の意識が高まっている傾向がある。そうすると現状の専門学校は少子化の影響もあり、今の状況では学生は減り続けるだろうと、普通に考えたらそうなると思う。大学でも、地元の魅力、価値をつけたりしているが、専門学校としても、看護学校の差別化、これはしていかないと僻地の学校で人を確保することは正直難しいと思う。例えば、道の仕組みがあるので難しいかも知れないが、ホームページや学校のサイトなどで、科目ごとに配布資料などを先生方が掲載し一元で見られるような仕組みや、Q&A、学生から質問があった時に、そこに書き込めば先生方も見られて回答する形だったり、課題などをホームページ上などで一元化して見てあげる形だったり、そのような仕組みができたらいいかなと思った。

学生のことについて、メンタルヘルスのサポートは継続してやっていただきたいと思う。

先ほど差別化だったり価値を高めると言ったが、卒業生のキャリア相談や潜在看護師の学び直しの機会だったり、ブランクのある有資格者に対して、特別の聴講生制度などで学校に入ってもらったりとか、そのようなことができないかと思う。外から人が入ると現役学生

も刺激になるでしょうし、ハラスメント抑止の効果もあるので、外からの目というのがあればいいかと思う。

教員の話は人材不足があるが、これは学院だけの力で解決できる話ではないと思う。道の考えについて機会があれば聞いてみたい。いつも人材不足ということで、せっかく先生方が質の高いことをやろうとしても限界があると思う。道の考えを教えて欲しい。

(事務局)

教員確保について、講師は確保困難職として人事担当を筆頭に取り組みされている。例えば、一旦、道職員として勤務していて辞められた方が、再び道職員として採用試験を受ける場合には試験が免除されるなどの制度もできたが、看護教員については、全道的、全国的に人材不足という状況で、さらに地域的なハンデもある。ただ、函館方面から通勤している職員も複数おり、通勤しやすい環境、テレワーク環境もかなり整ってきているので、その部分もPRをして人材確保できるような努力ができるかと考えているところ。

(非常勤講師)

ちょっと伺ったところによると、看護教員や保健師などの職員は常に募集し、もしエントリーがあった場合には即面接していると聞いている。

(事務局)

通年募集を行っており、年齢も59歳までで実質年齢制限はない。講師、保健師、獣医師などの採用困難職については、かなり要件が緩和されている。

(地域住民)

NPO法人の理事長をしている。今日学生自治会で学生が出席している。この子は社会人からの入学で高校生の時から、ずっと私達の活動を一緒にやってきて、地域の困りごとをみんなんで解決しようという集まりでも、大人の中に入って興味深そうに話を聞いていて、その

まま高校を卒業して就職しコーディネーターの仕事をしていた。それで何かを感じたのか急に看護の道に行く決めて、それを聞いて私は本当に嬉しかった。自分たちと一緒に活動してきた中から小さな芽が出て、これから外に出て行くと言うのを誇りに思い、その大きな決断を本当に偉いと思った。そのような思いを持ってくれる子がどんどん出てくれば良いと思う。ですから、私達の活動もそれに向けてやっていかないとならないと思ってる。普通の看護学生と比べるとスタートは少し遅れたが、実際の社会の中で体感してきたことはすごく役に立つと思うので、努力して頑張ってもらいたい。また、友達にもいっぱい学院を紹介して「江差に来て」って言って欲しい。公の力も大事ですけど、民間の小さなところの誘い声も良いと感じている。

(座長)

ご本人から心境の変化などを聞いてみたいと思いますがお願いします。

(学生自治会役員)

仕事で地域の中を回っている仕事をしていた時に感じたのは、まず専門職が不足しているという課題に直面した時に、私の職では何もできない、私の知識とかでは何も解決できていないのではないかとこのころに気づき、この学院の職員がまちづくりの会合に出席し、私がおその担当をしていたが、そこで学院のことを知り社会人でも入りやすいという魅力に気づいて「ちょっと頑張ってみるか」と思ったのと、江差町が大好きなので江差町のために何かできることがあればと思い、もう一度学生に戻ろうと決意をして、入学したところ。

(座長)

ありがとうございます。同窓会長は、教員になることは考えていますか。

(同窓会長)

今、ちょうど4年目の看護師なので、講師になるためには5年の経験が必要なので、今の

ところはまだ臨床で活躍したいと思っています。

(座長)

自己評価報告書については、これでよろしいでしょうか。(賛同)

(2) 令和5年度(2023年度)オープンキャンパスの実施について(資料2)

事務局より資料2を用いて説明。

昨年度のオープンキャンパスは最終的にコロナの影響で中止することになったが、早い時期から企画や周知を工夫してきたにも関わらず、申し込みは6名と振るわなかった。

今年度は、今の少子化の時代、早い段階から看護職になりたい気持ちを持ってもらえるよう、対象を高校生に限らず小中学生や小さなお子さん、地域の方々などに拡大し、多くの方に学院の現状を知っていただくことでハラスメント問題に対する信頼回復にもつなげたいと思ひ、地域型オープンキャンパスを企画した。

○目的

看護職を志望する学生や子どもを増やすとともに、学院の現状を地域の方々に知っていただく機会とする

○目標

看護学校進学を目指す学生が、江差高看を志望校の一つとして考えることができる。江差高看を志望校の一つとして考えている学生が、入学にあたっての疑問を解消し江差高看に入学したい気持ちが高まる。地域の子どもたちが保健医療福祉従事者に関心を持つきっかけになる。地域住民が学院の現状を知るとともに、健康や地域医療について考える機会になる。

○対象

看護学校入学を目指す高校生のほか、将来、看護師等を志望する子どもさん、看護や健

康について関心がある地域住民等、どなたでも来ていただけるイベントをイメージ。

#### ○日時

7月22日土曜日11時～15時を予定。

本来、高校や中学校の夏季休暇中が望ましいが、当学院の学生は寮生が多く夏季休暇に帰省してしまうので、この日程とさせていただきます。

#### ○場所・実施方法

場所は江差高等看護学院。

共催団体を募り実行委員会形式で実施。学院としては、学生自治会はもちろん、様々な関係団体に共催いただけると、バラエティにとんだ様々なコーナーができて楽しいイベントになるのではないかと考えているところ。

#### ○内容案

学院では、学院内を案内するキャンパスツアー、モデル人形を使って心音や呼吸音を聞くフィジカルアセスメント体験、子ども用白衣を着て写真撮影をする小さな看護師さんコーナー、ミニ縁日、DVD視聴コーナーなどを考えている。

江差病院には、例えばきちんと手洗いができているか汚れをチェックする手洗いチェック体験、江差町には血圧や体脂肪測定など、また、可能であれば、NPO法人で軽食の提供などいただくと、多くの方が来てくださるのではないかと考えている。寮の食事を提供して下さっているあすなろ福祉会にも声をかけ、パン販売コーナーも設けたいと思っている。

ただ学生自治会は学生数が少なく、3年生が実習中であることなどから、主に従事できるのは1、2年生14名なので、江差高校の生徒さんの協力がいただくとありがたい。

内容は学院案なので、各団体でお考えいただいてももちろん結構です。

学院ではこの1年、ハラスメント再発防止対策に取り組んで、学生が安心して学べる環境を整えてきた。今後は、今の学院の現状を積極的に発信することで、学生確保にもつなげていきたいと考えており、地元にある看護学院を身近に感じていただく機会になればと思う。

共催していただける場合は、来週金曜日を目処に学院にご連絡をお願いする。ファックス送信票を添付しているが、メールや電話でご連絡いただいてもかまわない。改めて正式に共催依頼の文書を送付する。また、実行委員会を6月16日に予定しており、ご都合がございましたらぜひ参加をお願いする。

(座長)

説明の中には共催の依頼もありましたが、今すぐ返事されなくても2日まででよろしいとのことですが、今すぐ返事される方いますか。

(地域住民)

24日にまちづくりの会合があって、その中に学院職員も同じグループでいてずいぶん煮詰まった話になったので、職員よりどうぞ。

(事務局)

先日24日のまちづくりの会合に行き、学院でこのようなオープンキャンパスを企画しているとお知らせをしようと思っていたところ、その会合でのグループワークの内容が、町内の各団体がいろんなイベントを実行して、なかなか外出しない人が外に出られるような取組をしないかということで、私も入っていたので、事前にこの話をさせていただいた。その中で、NPO法人も月1回地域食堂を江差町内で実施しているが、いつも同じ場所で行っている。「ちょっと違う場所でも」と思っているとのこと。「学院を使ってはどうですか」という話をさせてもらったり、江差高校で地域学の勉強をされていて、その教員と複数のゼミのうち食品ゼミの担当の生徒がいて、ゼミの生徒も地域食堂をお手伝いできるのでな

いかという話や、グループ内の他の参加者から、江差高校には茶道部があるがなかなか披露する機会がないので、そういったものもやっても面白いという話も出て、その時来ていた茶道部の方々も乗り気で、色々な団体が参加していただけるのではないかと思います。

(保健関係者)

事前に学院長からお話をいただいていた、実をいうとこの日保健事業が朝から入っていることと保健師の数が少ないということもありますが、今月の課の中の会議の際に、学院からこのような話がきていることを提案して、何とか参加する方向で協議をしていこうということになった。今日帰って来週にでも担当係と協議をしながら、何ができるかというところを含めて相談し、人数はあまり出せないですけど、できるだけ協力をする方向で今、進めたいと思っております。

(医療関係者)

江差病院はオープンキャンパスに向けて参加するメンバーは決まっており、メンバーの中でどんなことをするのかで考えてもらっている。若い人たちの方が発想が豊かですし、インスタグラムとかで発信できるような取組を考えてくれそうでした。病院には院内保育園がありますが、小さいお子さんを連れて参加していただけるようなイベントにできれば良いと思う。

(3) その他 学院 PR 動画上映

一昨日 24 日、高校教員向けの学院説明会を行い、学生の協力を得て学院の P R 動画を撮影しました。約 5 分程度のインタビュー等になっている。

(動画上映)

終了